

私たちは国土と民を失った



●原発を20年間このやむ黙相馬の海
●過去からの風がふいていかない
=こうやれも藤原新也撮影

藤原 新也

作家

ふじわら。しんや 1944年福岡県門司市（現・北九州市）生まれ。作家、写真家。著書に『東京漂流』『死ぬな生きろ』など多数。近著に作家石牟礼道子さんとの対談集『なみだふるはな』。

「3・11」から後、あらためて水俣病が注目されていく。企業のやせんな安全管理による破綻と有害物質の放出。生物濃縮。危機にさしかかる国民の生活の命。罪な動物たちの犠牲。海の汚染。企業のウソとそれに追随する言憶。政府……。東京電力福島第一原発とチタン水俣工場による環境汚染と、それに伴う企業や政府の対応が、双生児のように酷似しているか

水俣病、そして原発事故

政治生命かけるべきものは

水俣の水銀汚染は被害が長期にわたりかつ深刻だが、海洋に限定されたりその性質上、被害の拡散範囲に地域性があるのに対し、福島の場合には、チエルノブリ原発事故によって三重のお茶から多量のセシウムが検出されたことが示すように、福島を最大被害地として日本のみならず全世界に広がる。海底に沈着した水銀は深海と埋め立てで封印されたが、陸、海、空に拡散した放射性物質の封印は不可能だ。

われひとり私が十分に詰りきていられない決定的な違いがある。それは水俣では土地や家、家族は残つたが、福島では我々は「国土を失った」といひました。そしてその国土に住む国民から土地や家を奪

られた。この事務処理的発言をした。「それはあんまりじやありませんか」と問うと、会社は「これは文学的問題ではない」と切り捨てた。加害者の側が唐突の反攻姿勢で騒ぐと、いう構図も先の電力会社の株主総会で同じ様相を見せた。かくも相似した二つの思春期らしい歴史が繰り返されているわけだが、水俣と福島はすべてが軌一であるというわけではない。

水俣の水銀汚染は被害が長期にわたりかつ深刻だが、海洋に限定されたりその性質上、被害の拡散範囲に地域性があるのに対し、福島の場合には、チエルノブリ原発事故によって三重のお茶から多量のセシウムが検出されたことが示すように、福島を最大被害地として日本のみならず全世界に広がる。海底に沈着した水銀は深海と埋め立てで封印されたが、陸、海、空に拡散した放射性物質の封印は不可能だ。

こんな第一級の緊急時にアジョウ

・鶴賀島・魚釣島の面積は3・8平方キロ。福島の原発事故で失った国土は飯館村だけでも230平方キロ。総計は約450万平方キロにも及ぶだ

んだと痛感した。

石原都知事が守るべき心にして、

こんな第一級の緊急時にアジョウ

・鶴賀島・魚釣島の面積は3・8平方

キロ。福島の原発事故で失った国土は飯館村だけでも230平方キロ。総計は約450万平方キロにも及ぶだ

んだと痛感した。

こんな第一級の緊急時にアジョウ

・鶴賀島・魚釣島の面積は3・8平方